

校友会誌



平成26年3月7日

発行

名古屋工学院専門学校校友会

名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

<http://koyukai.denpa.ac.jp/>

<第55号>

『節目の年から未来に向けて』

校友会会長 池戸 博行

校友会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝とご活躍のこととお喜び申し上げます。第30期校友会会長として、平成24年度・25年度の2年間、校友各位とともに、学園と連携を図りながら活動してまいりました。校友会の支部は、これまで、東京・富山・石川・福井・三重・大坂・四国・沖縄の8支部でしたが、平成25年に静岡支部と長野支部を発足して10支部となりました。

平成25年10月2日夜、伊勢神宮内宮で新しい正殿にご神体をうつす遷御が営ま

れ、今回で62回目、20年に1度、8年がかりで社殿などを建て替える式年遷宮の集大成です。1300年の間、「形」・「心」・「技」の伝統は受け継がれ、次の20年へと引き継がれました。また、縁結びで知られる出雲大社でも御本殿の修造が完了して60年に一度の遷宮がおこなわれました。

母校においては、昨年3月、昭和32年に建てられた鉄筋4階建ての実験講堂（2号館）が、耐震の関係で取壊されました。現在は、メモリアルコートとして記念碑が建てられています。私も実験講堂の1階で基礎実験を行い、1週間に一度、学校指定の表紙を付けて実験レ

ポートを提出した覚えがあります。学校創立期の卒業生の皆様には、校舎という形は無くても、この場所で多くの友人と勉学に励んだ記憶は無くならないと思います。

今年の方針は「午」です。十二支はもともと方向や時刻を示しており、午年は折り返しで転換期として重要な年です。節目の年に未来に向けて心眼で新たな校友会の基礎を再構築したいと考えております。更に、校友会活動を活発にするには、校友会会則の一部変更も必要となりますので、卒業生の皆様のご意見をお聞きして、全卒業生の交流の場へとステップアップしていきたいと思っております。今後ともご協力とご支援をお願い申し上げます。

以前、企業の寿命は30年と言われておりましたが、昨今は18年とも言われる時代なのです。それだけ賞味期間が短くなっているのです。従来のような創立〇〇年とか、歴史、伝統では生きていくことが出来ない世界になっているのです。学校も常に変化し、新鮮でなければ賞味期限が切れ、腐敗するのです。

『社会から求められる専修学校へ』

校長 小川 明治

学園は、創立60周年の節目を越え、更なる飛躍のための第一歩を踏み出し、建学の精神の具現化を目指し、教育改革に挑んでいます。

一方、時代の変化とともに、高等教育機関における教育改革も進みつつあり、現在、国の【平成の学制大改革部会】において、種々検討がされています。専修学校においても、専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識・技術及び技能について組織的な教育を行うものを、文部

科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とした『職業実践専門課程』が、昨年の8月30日に公布・施行され、今年の4月から創設されることになりました。

『職業実践専門課程』の認可には、従来の『自己評価』に留まることなく、外部の評価者とともに行う『学校関係者評価』また、職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携をとりながら、カリキュラムの作成。さらに、各種の情報公開等、多くのハードルがあります。

本校も、社会から求められる専修学校をめざし、意欲的に取り組んでまいります。

本校も、60年という伝統を守りながら、甘んじることなく、常に進化をさせ、全教職員が一丸となり、新しい歴史を築いてまいります。

最後に、校友会会員の皆様の、益々のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、本校へのご支援、ご協力をお願いいたします。

## 「大阪支部長を終えて」

電子計算機科

昭和47年卒 田邊 和哉

私が電子計算機科に入学したのが、昭和45年の春でした。

当時の学校名は、名古屋電気通信工学院でした。

岡山県津山市という、県北の山の中で18年間過ごしてきた私にとつては、「ずいぶん都会にきたものだ」と感じたものでした。

在学時は、学生寮の一つである「井戸田寮」に入り2年間という期間を過ごしました。

寮で過ごしたこの2年間という日々は今でも懐かしく、昨日のことのように思い出されます。

当時は名古屋工学院専門学校のような大規模の専門学校は全国的にも少なく、同級生（同寮生）には、北は青森から南は沖縄までの出身学生がおよそ50名ほど在寮する大所帯での生活でした。

話をすれば方言有り、訛りあり（でも誰も自分基準語だと思っていたよな？）で毎日楽しく、おかしく、時間が過ぎて行くのを忘れ話し込んでいたものでした。

その中には、今でも連絡を取り合っている近況を語り合える友が何人もいます。

とを、とてもありがたく思っています。

現在は、大阪に住居を構えて40年が過ぎました。その40年間で、校友会大阪支部の存在を知り、参加する事により多くの同窓生や先生方と交流を持つようになりました。そういった方々と、当時の学校の事、先生方の事、そして現在の母校である名古屋工学院専門学校の様子を聞き、懐かしく思い出しながら楽しい時間を過ごしております。

さて、大阪支部も新支部長のもと新たに支部活動を行うこととなりますが、近年は参加者減少の傾向にあります。特に若い方々の参加が少ないのが現状です。

在校生、卒業生の皆さんには、友達などを誘って気軽に参加してみたいと感じています。年代は違いますが、資格取得や技術習得を同じ年代の時に同じように目指してきた人たちと交流を持つことで、昔を振り返ったりしながら楽しい時間を過ごせる事と思います。

私自身も、様々な人と交流を持つことで、情報交換だけでなく、支えられたと感じる事は多々ありました。

最後に、多くの先生方、各支部の支部長、支部役員の方々に見守られながら無事支部長という役目を終えられたことを感謝いたしております。これからも、一人の会員として、微力ながら頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

## 「守破離」

メディア学科 古市 雅邦

卒業生への寄せ書きに「守破離」と書いた。「守破離」という言葉が初耳の人もいるであろうから、今回この言葉の意味についてふれてみたい。

日本には古来から「道（どう）」という文化が存在する。剣道、柔道、弓道、茶道、華道、どれも「道」が付いている。この「道」という言葉には、事物、人生等の本質に迫ろうとする生き方という意味がある。すなわち、剣道であれば、剣術の本質に迫るための生き方という意味となり、同様に柔道であれば柔術の本質に迫るための生き方という意味になる。

さて、「守破離」であるが、「道」の中で稽古、修行を行う順番を表した言葉であり、「守」、「破」、「離」と3つの言葉に分けられる。

まず「守」とは、先生の教えを忠実に守り、それからはずれることのないように身につけるといった意味である。

次に「破」とは、今まで学んで身につけた教えから一歩進めて、他の技術や知識をみにつけることを心がけ、先生から教えられたものを打ち破り、さらに向上させるという意味である。

最後に「離」とは、「破」からさらに知識、技術を身につけたうえで、新しい世界を拓き、独自のものを生みだし、先生の教えから離れていくという意味である。

「守破離」は単に武道や作法の世界だけの教えではなく、専門学校で学んできた事にも当てはまる。先生に教えられたその知識や技術に止まっていたのは発展はない。先生に教えられた技術をしのぎ、より高い次元に発展させてこそ自分自身の成長がある。さらにこの考え方は、社会人になって仕事をしていく場合でも当てはまり、職場の上司や先輩から知識や技術を学びそれを越えるよう努力していくことになる。

学生諸君にはこれから様々な困難なことや辛いことが起きるであろう。しかし、まだ道半ばである。「守破離」という言葉を思い出し、困難なこと辛いことを乗り越え、我々教員を超えて成長してほしいという願いを込めて寄せ書きの言葉とさせていただきます。



平成二十四年度

# 校友会事業経過報告

年月日 事業内容

24・4・21 卒業生による特別講演会

「工学院から南極をめざして

〜夢の実現と将来のアドバイス〜

野口 徹也氏

(昭和60年電波通信学科卒)

24・5・14 校友会常任役員会 開催

24・6・15 卒業生による特別講演会

「ゲームプランナーによる

ソーシャルゲームプランニング」

牧野 慎也氏

(平成19年ゲームサイエンス科卒)

24・6・23 校友会支部長総会 開催

24・6・29 校友会富山支部総会 開催

(支部担当 村崎 出席)

24・7・6 校友会石川支部総会 開催

(支部担当 石黒 出席)

24・7・17 校友会メールマガジン

【かもめ〜ルNo.28】配信

24・8・25〜26

創立60周年記念事業

ハムフェア2012に出店(東京)

24・10・10 校友会メールマガジン

【かもめ〜ルNo.29】配信

24・10・27〜28

学園祭 校友会コーナー運営

24・11・23 校友会沖縄支部総会 開催

(支部担当 堀内 出席)

25・1・10 校友会メールマガジン

【かもめ〜ルNo.30】配信

25・2・26 校友会常任役員会 開催

校友会賞審査

25・3・7 校友会賞授与(20名)

25・3・8 校友会誌『かもめ』

第54号発刊

25・3・16 校友会誌『かもめ』

(1258通発送)

## 各支部長

### および支部連絡先

▽富山支部長 中島 光憲

昭和49年第一部テレビ技術科卒

・支部担当 村崎 博樹

▽石川支部長 坂本 守

昭和52年第一部電気通信科卒

・支部担当 石黒 誠

▽福井支部長 山崎 利治

昭和40年第一部電気通信科卒

(活動休止中)

・支部担当 神谷 裕之

▽四国支部長 松浦 正昭

昭和34年第一部本科卒

・支部担当 高須 真人

▽沖縄支部長 南風原 武則

平成4年 電気工学科卒業

・支部担当 堀内 豊

▽静岡支部長 富田 明

昭和53年電気工学科卒

・支部担当 堀内 豊

▽長野支部長 市瀬 耀一

平成25年電気工学科研究科卒

・支部担当 松橋 卓也

☆支部担当連絡先

名古屋工学院専門学校

校友会各支部担当者

所在地 名古屋市熱田区

神宮四丁目7-21

電話 052-681-1311 (代)

## 第三十期校友会常任役員

会長	池戸 博行
副会長	岩井 敬典
副会長	堀内 豊
書記	鈴木 一司
會計	梶間 泰
幹事長	村岡 好久
幹事	竹下 啓太
幹事	根岸 雅巳
幹事	高須 真人
幹事	松岡 昇
幹事	坂下 正義
幹事	古市 雅邦
幹事	松本 英晃
幹事	平岩 清
幹事	石黒 誠
幹事	隈元 良一
幹事	松橋 卓也
幹事	神谷 裕之
幹事	田中 和彦
會計監査	神谷 公司
會計監査	小川 明治
相談役	坂田 和義
相談役	倉田 豊行

平成24年度 校友会収支決算書（一般会計の部）

収入の部 合計金額 24,882,130 円  
 支出の部 合計金額 24,882,130 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	23,210,604	会誌発行費	226,140
校友会活動費	1,668,000	支部結成維持費	781,596
預金利息	3,526	講演会費	44,220
		援助費	0
		慶弔費	976
		備品消耗品費	25,515
		校友会賞費	74,886
		功労賞費	215,950
		会議費	0
		会長交際費	28,350
		学園祭協賛費	43,185
		創立60周年記念事業	96,375
		予備費	0
		次年度繰越金	23,344,937
合計	24,882,130	合計	24,882,130

平成24年度 校友会収支決算書（特別会計の部）

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 31,530,241 円  
 支出の部 合計金額 31,530,241 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	3,161,257	今年度貸付金	0
奨学金返金	1,659,000	貸付繰越金	18,807,500
一般会計から	0	事務・通信費	15,140
預金利息	2,484	次年度繰越金	4,807,601
貸付繰越金	18,807,500	奨学基金	7,900,000
奨学基金	7,900,000		
合計	31,530,241	合計	31,530,241

# 学園あれこれ 二〇一四

日頃はすました顔して学校業務に勤しむ先生方。

でも、先生だって人間、いろんな顔がある。

▼初めて担任を持った若い先生を見てみると、自分の若いころを思い出す。

新井先生と山田先生はタイプは違いますが、自分なりのカラー（顔）を生かしてクラス運営に全精力をつぎ込む。

そこへ中堅、ベテランの先生が絡み合っている。3号館はレインボー状態で光り輝いている。

光と影は表裏一体。その影を覗いてみた。

▼山本先生は、南海トラフ巨大地震に備えてか、職員ロッカーを備置基地化し、カップ麺やレトルト食品をぎっしり詰め込んでいる。地震は来てほしくないが、備えは万全だ。

▼こちらは、光り輝く新婚時代が終わろうとしている岩佐先生。実は恐妻家。

奥様が出かけるときに作り置きしたカレーをどうしたとか、勘違いして捨ててしまった。

あとで間違いに気が付き、顔面蒼白。「とっっても美味しかったよ。」

奥様の顔を正面から見れず、怖くて、どうしても正直に言えなかった。

学生には「人と話をする時は、しっかりと相手の目をみて話すように。」という岩佐先生の声がどこからか聞こえてくる。

▼小林先生は、光は出さずに声を出して目立とうとする。

静寂な職員室で突然、大声で叫ぶ。全員の目を集めて一言。可愛くもない小首を傾げて「はんこ、逆さまに押しちゃった。エヘッ！」いい加減にしてくれよ。

岡先生が宛名が逆様に書いてある封筒を持っていたので指摘したら、

「私じゃありませんよ。これ書いたのは小林先生なんです。恥ずかしいなあ」

さもありなん。一号線を越えて、10号館にまで影響を及ぼす小林先生だ。

▼さてその10号館では、朝の始業前、軽やかな音楽が聞こえてくる。

フォークソング世代の園先生が、ギターを弾いている。

九州・沖縄県人会では、アトラクションとして、青年の希望をつづる歌と演奏を披露。

フォークギター、サングラス、青春だ。

▼ここにも「青春」がいる。

還暦間近の辻野先生は、休日には大型バイクに跨り、颯爽と高原道路を駆巡る。バイクだけではない。皆さんは、10号館に展示してある赤い自動車をご存知だろうか。組立てキットの実習機材なのだ。なんとナンバーを取得してあるのだ。公道を走れるのだ。排気量は50ccのオープンカー。顔に風を感じる。

昨年、真赤な衣装のサンタに扮した辻野先生が真赤な車に乗って師走の街に跳びだした。

『児童虐待をなくそうクリスマス・トイラン』というイベントで名古屋の中心街を約200台のハーレーとパレードした優しい辻野サンタだった。

▼坂下先生は今年、仕事が次から次に押し寄せ、てんてこ舞いだ。

話題作の映画を家族で見ると、自分だけが行きそびれてしまった。

仕方なくやつのことで時間を見つけて、一人で行く羽目になったのだが、一人で良かった。もともと感情移入が激しい性格なので、感動、感動、また感動。嗚咽をこらえて号泣だ。

海坊主とあだ名された、あの頭がヒクヒク、顔はクシヤクシヤ。とても他人には見せられないし、見たくもない。映画館が暗くて良かった。

▼号泣といえ、堀内先生も泣いた。愛娘が嫁いでしまったのだ。

荒木先生は、ご長男が社会人に、そして愛娘がご成人。

長谷川（勲）先生は、ご子息とご令嬢がダブル受験。神経ヒリヒリ、近寄るな。

先生方も家に帰れば普通のお父さん。学生と同じ年頃の子供を持つ、親としての顔がチラリと見え隠れする。

▼育メンを自称する松本先生は、子供はまだ小さい。この人も恐妻家である。家内行事はすべて奥様優先。

ある日、半年に1度しかない男の集まりに、都合で出席できないという。

問詰めた結果

「実はうちの奥さんも、女の集まりで・・・。ボクが子供の面倒を・・・。」奥様に敬礼している姿が目には浮かぶ。

▼さてこちらは、孫を目に入れても平気な顔をしている村岡先生が赤面した。

ある日、出張先の近くで、ショーウィンドウの『ワンカット千円』に目をとめた。約束の時間にはまだ余裕があるし、サッパリしてから訪問しよう、と「お願いします。」と元氣よく飛び込んだ。

「いらっしやいませ。少々お待ちください。」と返ってきたそこには、プードルに鉢を入れる、うら若き女性トリマーの姿があった。この時ばかりは、顔から火が出たそう。

◎学校で見る先生方の顔は、どっちがほんとの顔？ いえいえ、どちらも本当の顔なのです。

（優良可）

# 「聞いてはじめての自慢はなし」

## 『学生の実習所感から』

「普通科の出身で機械の操作など全くできなかった僕を先生は優しく、時には父親のように厳しく教えてくれました。技術面以外にも実社会に出る上での心構えも色々教えていただきました。中でも常に問題意識を持って行動しなければいけないという話を聞いた時は、それまでの自分の甘さを痛感し、心に響きました。一年生の頃は何もできなかった僕ですが、先生のおかげで今では図面が理解でき、しっかりと加工ができる技術を身に付ける事ができました。(途中省略) 最後になりましたが、先生に教わった実習と授業の前後に先生と共にした色々な話は僕の学生生活の一番の思い出になりました。本当に二年間ありがとうございました。」

これはある学生の実習の報告書の最後に書かれていた文章です。

入学当初の彼は不器用で要領も悪く自分に自信の持てない学生でした。実習担当は製造現場での経験が長い、職人タイプの少し厳しい講師で、機械の操作を間違うと危険も伴うため真剣に怒ります。彼も何度か叱られ初めは凹んでいましたが、何とかしたいと担任に居残り指導を志願。担任からも叱られながらも努力し取り組み、見事弱点を克服しました。



▲実習で使用する旋盤

彼のような学生を社会に送り出したことが我が分野の自慢であり、今後も卒業時に「ありがとう」と言ってくれる学生を増やしていきたい。

海坊主

## 『スペシャリスト試験』

### 14年連続合格

今年もまたまたやりました！  
情報処理技術者試験の最高ランク、スペシャリスト試験に合格者を輩出し、これで14年連続となりました。

ネットワークスペシャリストに10名、データベーススペシャリストに3名、情報セキュリティスペシャリストに5名のスペシャリストが誕生しました。

特にネットワークスペシャリストにおいては、愛知県の全大学・全専門学校の合格者が16名であったので、本校の合格者がこの中の大半を占めたこととなりました。

工学院の情報学科は、スペシャリストを誕生させる学校です。

次年度以降もスペシャリストの連続合格は続きます。

## 『ITガールズ』

### プロジェクト始動

新技術や新サービスを創造する目的で一号館の三階にイノベーションラボを新設しました。そのイノベーションラボで選ばれた女子学生8人による「ITガールズプロジェクト」を始動しました。

このプロジェクトでは、Web制作会社とコラボし、一線で活躍するクリエイターから指導を受けて学校HPのコンテンツを制作しています。



情報デザイン科の学生がデザイン担当、情報システム科や情報総合学科の学生がプログラミングを担当しています。

そして、12月にプロジェクトメンバーが制作したスペシャルサイト「キャンパスライフ」を公開しました。

内容は、「施設紹介」「イベントレポート」「周辺ランチマップ」です。

学生生活の楽しさが伝わるような、かわい сайトとなっておりしますので、ぜひご覧ください。

(ITでオ・モ・テ・ナ・シ)

## 『作って、見せて、楽しんで』

クリエイターの基本は作って、見せて、評価を受けること。学生であっても、この基本を繰り返して、日々の活動を続けます。

この当たり前とされる行為、文字にするのは簡単ですが、実際の活動となると、人が面白く感じる仕組みを分析したり、美しさを求めデザインしたりと試行錯誤の繰り返し、思考と時間を大量に消費して、初めて実現できる事となります。

しかし、日々頑張れば、結果は付いてきます。ゲーム総合学科1年の小林俊太郎君と古川 貴土君が開発した「画針(がばり)1001 里の道」は、日本ゲーム大賞の佳作と愛知デジタルコンテストのグランプリのダブル受賞。同じく愛知デジタルコンテストではCGムービーの「おみまもり」も受賞。学園祭と同時開催した「でじつく☆フェスタ」では約500人の来場者を記録し、多くの方々に作品を見ていただきました。努力して作品を作れば、多くの人から評価をいただく楽しみも手に入れることが出来るのです。

(トリプルクリック)

(7)

### 『伝統の力』

今年度全国の保安協会に内定を頂いた学生の写真撮影を行いました。そこでもしみじみと思ったのは、私が奉職した20年前では、電気工学科卒業クラスの在籍が150名ほどでしたが、その中で1番の学生が中部電力、2番の学生が中部電気保安協会に就職するという流れであり、中部以外の保安協会はほとんど就職実績がない状態でした。

それが、今では19名の学生が全国の保安協会から内定を頂いています。これも、地道に電験3種にこだわり、毎年50名を超える取得者を輩出し続けている成果ではないでしょうか。



▲各地域の電気保安協会に合格した19名

これは一例であり、それ以外にも超優良企業から声をかけていただいております。これが、伝統の力というものでないでしょうか。(デンセン)

### 『みちのくのフェスティバル支援実習』

映像音響科では、毎年イベントや映像制作に関する専門家を育成するためにさまざまなイベント支援に出向きます。今年も多くは学外支援実習を実施しましたが、その中の一つを紹介します。

8月30日から9月4日まで、名古屋市中区にある矢場公園で行なわれたイベントで、舞台照明、音響、映像などの担当をさせて頂いていただきました。毎日、悪天候で夕立が起こり、本番終了後に激しい雨にみまわれて必死に雨と戦いました。



▲学外での実習を通して、学生たちは多くのことを学びます。

また、最終日は、大雨警報が発令され中止となつてしまいスタッフの学生達はその対策に力を注ぎました。過酷な体験も大変良い勉強になったことと思います。終わったときには、全員がこのイベントをやり遂げたという達成感が得られた

と思います。お疲れさまでした。

### 『ロボット大会出場を通して磨かれる技術と人間力』

今年もまた、ロボット競技会に参加しました。各種の大会で、入賞常連の我が校。それなりの注目を集めます。

「入賞して当たり前」、のプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、新しい機構、プログラムを考え試行錯誤しながらロボットを作り上げていきます。一歩進むごとに問題点が噴出。

その一つ一つを地道に時間をかけて解決する中で、問題解決能力が鍛えられ、技術が磨かれていきます。

そうして作られたロボットを連れて今年度も、全国専門学校ロボット競技会に臨みました。

優勝は逃したものの第三位。しかし、今回は、入賞もさることながら、嬉しい事がありました。

大会会長の言葉に、「名古屋工業院の選手たちは、元気がよく礼儀正しい。挨拶が気持ちいい。」

ほかに大会関係者からも「チーム力も纏まって、応援も素晴らしかった。」と、耳に入ってきた。

そして、大会後、会場を退出する我が校チームは、整列して会場の片づけをする関係者に向かって挨拶。関係者もしばし手を休め、拍手を送ってくれました。

機械に魂を吹き込むロボット技術者は、人間としても成長しています。(ロボ吉)

### 『電子・デジタル家電分野』

まずは今年度の就職内定状況だ。平成25年は、年初から「アベノミクス」の期待に沸いた一年であった。景気状況は、徐々に上向いて来たが、該当の全三クラスが、年度内100%を達成できるよう頑張っている。各クラスの、進路、就職内定率は、90%目前まで到達した。各クラスあと1〜2名の未決定者を残すのみ。ゴールは目前だ！

今年も、中部国際空港情報通信(株)、(株)KDDIエンジニアリング、(株)エディオン、ソレックス株等、目標とする優良企業から多数の内定をいただいた。次に、『工事担任者AI・DD総合種』の認定講座だ。総務省より認可され、14年目に入った。今年度は、電子情報学科1年生26名が、全員取得を目標に頑張っている。この講座により、是非とも欲しい価値ある資格が取得できるようになった。例年のように、3月中旬には、合格の目途が立ちそうだ。頑張れ！

最後に、デジタル家電科1年生の近藤知也君の件についてである。科の目標とする家電製品アドバイザー試験『生活家電』、『AV情報家電』、家電製品エンジニア試験『生活家電』、『工事担任者DD1種』にも合格した。彼は、入学後の半年間で見事に合格した。現在、次なる資格の家電製品エンジニア試験『AV情報家電』目標に勉強中である。彼には、大きな期待が掛かる。是非、頑張ってもらいたい。

(平成26年1月記載 デジデジ)

平成二五年度

# 母校のおもなできごと

今年度は、台風や竜巻などによる自然災害が各地で発生した。京都や伊豆大島の被害は、メディアでも大きく取り挙げられていた。

静岡では、茶畑が地滑りで崩れ落ちた。崩落を免れたお茶を、滑らずに耐えた「奇跡のお茶」として売り出している。ピンチをチャンスにする日本人の逞しさを感じる。

さて、工学院の学生たちの1年はどうであったか？ピンチをチャンスにできなかったらどうか？



- 4月8日(月) 昼間部・オリエンテーション／電波学園合同入学式
- 4月9日(火) 始業式
- 4月21日(日) 春期 情報処理技術者試験
- 4月26日(金) 第1回県人会
- 5月17日(金) 第1回・企業説明会
- 5月18日(土) 寮対抗球技大会
- 優勝 石川 豊 (明治寮北館)
- 準優勝 松川貴裕 (明治寮)
- 第3位 井上雄大 (明治寮北館)

- 5月24日(金) 献血運動
- 5月26日(日) 工事担任者試験
- 6月1日(土) 東海地区教育懇談会 (卒業クラス)
- 6月1日(土) 堀川まつり／ポスター採用／高木あおい (ゲームCG学科)



- 6月2日(日) 第二種電気工事士筆記試験
- 6月9日(日) 映像音響処理技術者資格認定試験
- 6月23日(日) 第1級・第2級CAD利用技術者試験
- 6月23日(日) 色彩検定
- 7月4日(水) 新学生会役員任命会 会長・福地康平 (情報総合学科)

- 副会長・鈴木良太 (機械工学科)
- 書記・古川貴士 (ゲーム総合学科)
- 会 計・中島司貴 (電子情報学科)
- 6月29日(土) 校友会支部長総会
- 7月1日(土) サウンドレコーディング技術認定試験
- 6月29日(土) ～7月14日(日) 教育懇談会／県人会担当教員が各地区へ赴き保護者との面談を行った。
- 6/29 富山・高山、6/30 長浜・郡上、7/6 石垣・宮古・熊野・金沢
- 7/7 那覇・伊勢・福井、7/13 松本・静岡、7/14 飯田・松本



▲教育懇談会 (福井会場) の様子。県人会担当教員が各地区へ赴き保護者との面談を行い、学校での様子や進路について話し合い、ご意見などを頂いた。

- 7月7日(日) サウンドレコーディング技術認定試験
- 7月8日(月) CG・ARTS検定
- 7月9日(火) 12日(金) 第1級・第2級陸上無線技術士試験
- 7月21日(日) 第1級・準1級・第2級3次元CAD利用技術者試験

- 7月22日(月) ～26日(金) 前期末試験
- 7月27日(土) 28日(日) 第二種電気工事士 上期技能試験
- 7月27日(土) 昼間部・夜間部終業 (夏期休暇)
- 8月20日(火) 夜間部始業
- 8月23日(金) ～9月7日(土) 第一級陸上特殊無線技士講習会
- 9月1日(日) 第三種電気主任技術者試験
- 9月1日(日) 第28回マイクロマウス初級者大会 (於・本校)
- マイクロマウスクラシック競技
- 優勝：浅井健太郎
- (ロボティクス創造学科4年)
- 3位：内藤久敏
- (ロボティクス創造学科4年)
- 優勝：武内郁也
- (ロボティクス創造学科4年)
- 支部サーキット競技
- 優勝：武内郁也
- (ロボティクス創造学科4年)
- 準優勝：内藤久敏
- (ロボティクス創造学科4年)
- ロボティクス創造学科(一般の部)
- 優勝：佐藤真一
- (ロボティクス創造学科4年)

(9)

準優勝：白井徳馬

(ロボティクス創造学科4年)

ロボスピリント競技(ワンメーカーの部)

優勝：浅井健太郎

(ロボティクス創造学科4年)

準優勝：武内郁也

(ロボティクス創造学科4年)

3位：内藤久敏

(ロボティクス創造学科4年)

9月8日(日) 家電製品エンジニア／アドバイザー試験

9月8日(日) Pro Tools 技術認定試験

9月11日(水) 家電製品アドバイザー試験

9月20日(日) 21日(月) 東京ゲームショウ見学

9月21日(月) 日本ゲーム大賞2013アマチュア部門／佳作

小林俊太郎(ゲーム総合学科1年)

古川貴士(ゲーム総合学科1年)



10月6日(日) 第一種電気工事士筆記試験

10月12日(土) 東海地区教育懇談会(進級クラス)

10月20日(日) 秋期 情報処理技術者試験

10月22日(火) 体育祭／今年も体育祭日和。鶴舞競技場に学生達の歓声が響きわたった。

10月26日(土) 27日(日) 第43回名学祭 テーマ「支える」／交友会コーナーでは、各地方の名産品の販売やノミの市を開催。売上金の全額を「あしなが東日本大震災・津波遺児募金」に寄付をした。

10月28日(日) 第28回全日本学生マイクロナウス大会(於：早稲田大学)



▲まさに、名学祭を支えた実行委員



▲体育祭で優勝した電気工学科2年B組

3位：内藤久敏

(ロボティクス創造学科4年)

ロボスピリント競技(一般の部)

優勝：佐藤真一

(ロボティクス創造学科4年)

準優勝：白井徳馬

(ロボティクス創造学科4年)

ロボスピリント競技(ワンメーカーの部)

優勝：佐藤真一

(ロボティクス創造学科4年)

準優勝：鈴木曾良

(ロボティクス創造学科4年)

3位：武内郁也

(ロボティクス創造学科4年)

10月28日(日) 第28回全日本学生マイクロナウス大会(於：早稲田大学)

マイクロナウスクラシック競技

3位：浅井健太郎

(ロボティクス創造学科4年)

マイクロナウスハーフサイズ競技

3位：武内郁也

(ロボティクス創造学科4年)

11月17日(日) 機械設計技術者試験

11月24日(日) デジタル技術検定試験

12月8日(日) 第一種・二種電気主任技術者試験(二次試験)

12月8日(日) 第一種電気工事士技能試験

12月21日(土) 22日(日) 第22回全国専門学校ロボット競技会(於：東京)

有線型ロボット対戦競技

3位：東盛和樹

(ロボティクス創造学科3年)

浪崎 将

(ロボティクス創造学科3年)

1月17日(金) 第2回県人会

1月21日(火) 24日(金) 第一級・第二級陸上無線技術士試験

1月27日(月) 31日(金) 卒業試験

2月7日(金) 14日(金) 進級試験

3月7日(金) 茶話会

3月9日(日) 家電製品エンジニア／アドバイザー試験

3月10日(月) 卒業式

3月12日(水) 家電製品アドバイザー試験

3月14日(金) 卒業

3月14日(木) 15日(金) 学園総合企業説明会

3月16日(日) 熱田の森ロボット競技会



▲3位入賞した武内君(左)と浅井君



# 熱田の散歩道

## 熱田神宮

「熱田の森の若緑♪」と、校歌にも歌われている「熱田神宮」。かもめ54号に続いて熱田の杜を散策する。

54号では、清水社まで紹介したが、今回は、その先へと進んでいく。

社殿のところから道は西に折れている。そこからぐるりと半円を描き本宮の裏に抜けるその道は「心の小径」という。木立の中を歩き本宮の裏の塀に沿って西に歩き、突き当たった右手に一之御前神社（いちのみさきじんじや）がある。本宮正面から見れば左最奥部（北西）にあるこの社のご祭神は、熱田大神の荒魂（あらみたま）である。

神の霊魂には、「荒魂」と「和魂」の2つがあり、それらは神の「怒り」と「慈悲」の2つの姿を表している。

「荒魂」は病を流行らせ天変地異を引き起こす。神の祟りは、この荒魂の現れであり、人々はそれを鎮めるために供物を捧げ神を祭ってきたのだ。

私も、無病息災を願って熱田大神の荒魂に手を合わせた。

さて、そこから本宮の東塀に沿って心の道を南に歩を進めると拝殿の前の広場にでる。拝殿を横切り授与所の前を通

り抜け、神楽殿の前を南に進んでいく。まず目に入るのは、「ならずの梅」と「西楽所」だ。「ならずの梅」は、江戸時代模写の享祿古図（室町時代）にも描かれている古木で、花は咲くが実がつかないためこう名付けられたそうだ。

西楽所は、戦災を免れた数少ない歴史的建造物のひとつであり、本来、対面した位置に東楽所があったのだが、こちらは焼失したらしい。

西楽所の南には信長塀がある。これは、三十三間堂の太閤塀、西宮神社の大練塀と並び日本三大土塀のひとつといわれている。

永祿3年（1560年）、織田信長は、押し寄せる今川義元の大軍を迎え撃つため、鳴海に軍を集結した。“桶狭間の戦い”である。清洲城を出発した信長は途中、熱田神宮に立ち寄り必勝祈願を行った。戦果はご存じのとおりだ。圧倒的に劣勢だったにも関わらず、信長は今川義元を倒し勝利した。

信長はそのお礼として、この地に築地塀（ついでいべい）を築造・奉納した。築地塀とは、土をつき固め、上に屋根をかけた土塀のこと。



▲信長塀と西楽所（奥の建物）  
建造時は400m あったが今では120m しか残っていない

信長塀を通り抜けるとすぐ左に大幸田神社（おおさきだじんじや）がある。小さな社であり参道からも外れているので、気が付く人は少ないと思う。年の初めにこの神前で世様神事（よだめしんじ）が執り行われている。この世様神事とは、作物の豊凶を占う農業神事で、ニュースでその様子が放映されていた。

信長塀の所からそのまま南に進むと、宝物館があり、いつもはその辺りにチャボがいる。チャボを探しながら道を進んでいくと今度は右に何やら武家屋敷の門のようなものが現れる。案内の立て札には清雪門（せいせつもん）と書かれている。この門は、もともと本宮の北門だったらしい。この門にも興味深いエピソードがある。この門は、別名「不開門（あかずのもん）」と呼ばれている。

668年に熱田神宮のご神体である

草薙剣が新羅の僧により盗まれる事件が発生した。その際、この清雪門から内部に侵入し盗み出したとされており、それ以来、この門は閉ざされたままとなっているという。

結局、新羅の僧は捕らわれの身となり、草薙剣は668年に熱田神宮に戻ってきている。

清雪門をあとにして木立の中を進んでいくとやがて熱田神宮の南駐車場に出る。

54号から2回にわたって紹介してきた熱田神宮。じっくり散策をする様々な発見があった。多くの史跡があり、その一つひとつに物語がある。今度、学校に来る機会があれば、そのときは是非熱田神宮にも足を運び、悠久の時の流れを感じて欲しい。



▲不開門と呼ばれている清雪門  
門だけが移築されているが、その中に入ることはできない

## 【特筆すべき学生】

最近の工学院で特筆する学生を紹介します。後輩の頑張りを讃えて下さい。

### ●スペシャリスト3冠王

情報総合学科 野々部智仁君

林 亮太君

情報学科の学生が目指している、情報処理技術者試験は、第1レベルから第4レベルまで対応しています。本校では、第2レベルの基本情報技術者試験の合格から目指しています。しかし、この試験でも合格率は27%位です。

第3レベルの応用情報技術者試験では、22%、さらに高度な第4レベルのスペシャリスト試験では、14%ほどの合格率でしかありません。

情報学科では、過去14年連続でこのスペシャリストの合格者がでていますが、個人で複数取得している学生は、ほんのわずかです。ましてや、ネットワーク、データベース、情報セキュリティの3つ全てを取得する学生は、ここ数年出ていません。まさに快挙といってよいでしょう。それが、今年も2名も出てしまったのです。



スペシャリスト3冠王

林 亮太君（東濃フロンティア高校出身：左）  
野々部 智仁君（一宮商業高校出身：右）

野々部君は、高校時代に応用情報技術者試験まで取得して、さらに高度な資格の取得と、基礎から様々な技術を学ぶため本校に入学してきました。3冠の他、CCNAや、オラクルマスターの取得など、当初の目的を超える数々の資格を達成し、さらに、通信教育を弊習することで、大学卒業資格まで得ています。

林君は、入学してから、全ての資格を取得しています。彼も3冠だけでなく、CCNAも取得しています。また、資格だけでなく、技術力は、クラスメイトのみならず、担当した教員全てが認める、高いレベルを備えています。

両名とも謙虚で、集中力と持続力も兼ね備えています。クラスメイトからの信頼は厚く、技術面では何かと頼り

にされており、一目おかれる存在です。就活では謙虚さが、ある意味企業側に評価されず？ 内定を得るのに苦労もしましたが、それも今となっては良い経験となっています。

進路は、野々部君はネットワーク技術者として、林君はシステム開発技術者として、それぞれの道を歩んでいくこととなりますが、両名とも、まだまだ伸びる人材であり、将来の活躍を大いに楽しみにしています。

### ●努力こそ成功への道

電気工学研究科 奥田博雅君

三重県といえば伊勢神宮。20年に一度の式年遷宮が行われ、例年以上に参拝される人が多いそうです。その伊勢神宮からほど近いところに三重県立伊勢工業高校があります。今回紹介するのは、電気工学研究科に在籍している奥田博雅君です。彼は伊勢工業高校出身で、陸上部の長距離選手として走る傍ら踊りも好きで、勉強よりも運動や趣味に時間を費やす毎日でした。

高校時代、就職希望だった彼は第一希望の企業に受験するも内定を得られずとも悔しい思いをしました。しかし、その悔しさの経験は、その

後の彼の人生を大きく変えるきっかけとなったのです。

悔しさの中、社会では電力インフラを支えるレベルの高い資格が必要だと感じた彼は、電験3種を取得して中部電力に入るという目標を掲げました。そして、その目標を達成するため名古屋工学院専門学校に入学する進路を選択しました。

その時まで勉強に重点を置いていなかった彼にとつて、入学当初は苦勞の連続でした。しかし、そこは陸上部で鍛えた粘り強さと「中部電力に入る」という大きな目標により、挫けそうになる気持ちを奮い立たせ勉強を継続できました。

その甲斐あって、2年間で電験3種、エネルギー管理士、さらには電験2種合格まで達成したのです。しかし、彼は、現状に満足することなく勉強と努力を継続し、最難関の電験1種においても、一次試験3科目合格を果たすことまで出来ました。

卒業年度を迎え、就職においても念願であった中部電力に内定することが出来ました。僅か3年という短い時間でしたが、目を見張るほどの成長を実現し、高校時代、悔しい思いの中、掲げた目標をすべて実現した奥田博雅君。今後の成長と活躍にますます期待したいです。

## 『きてきて富山 きときと富山』

富山支部担当 村崎 博樹

タイトルにある「きときと」という言葉は、富山県の方言で「新鮮な」という意味がある。今回は北陸新幹線の開業に伴い、富山県がP R活動で打ち出しているキャッチフレーズを、「支部だよりのタイトルとして使用させてもらった。また、P R活動に使われているマスコットキャラクターが、「きときと君」と呼ばれていることも、広く知って頂きたいという気持ちも含まれており、魚介類が新鮮で美味しい富山県に相応しい名前だと思っている。

一昔前の富山県のイメージは、とにかく「遠い」の一言に尽きた。愛知県から富山県までは、北陸自動車道を利用するルートと、岐阜県の御母衣ダムを経由するルートが主流だったが、二〇〇八年七月に東海北陸自動車道が全線開通してからは、富山県へのアクセスが大きく変化することになった。

東海北陸自動車道は起点の愛知県一宮市から岐阜県を経由して富山県砺波市へ至る東海地方と北陸地方を縦断する高速道路であり、名古屋市から富山市へのアクセス時間は約一時間短縮されることになった。

観光面における影響は、東海北陸自動

車道に接続する能越自動車道の沿線にあたる富山県西部と石川県能登方面を中心として、東海方面や関西方面からの観光客が大幅に増加することになった。

日帰り観光が容易となり、北陸地方が誇る新鮮な魚介類や名産品を手にする機会が格段に増える結果となった。

私は岐阜県高山市の出身だが、山岳地帯である飛騨地方の方々にとつて、東海北陸自動車道が全線開通した恩恵は大きく、皆が揃って歓喜の声を挙げていたのを記憶している。

次に、二〇一五年春開業の北陸新幹線の話題に移る。群馬県にある上越新幹線の高崎駅から長野方面に分岐して、石川県の金沢駅まで繋がるルートが遂に完成間近となった。富山県には新しく「黒部宇奈月温泉駅」、「富山駅」、「新高岡駅」が誕生する。既に工事は着工しており、現在も整備が進んでいる。

開業により、東京から富山へのアクセス時間は、これまた、約一時間短縮されることになる。最速で走る新幹線「かがやき」を利用すれば、時間にして二時間七分。乗り換えなしで移動することができようになる。

また、年間輸送能力が拡大され、長野方面に向かう現行の新幹線「あさま」と同等の本数が北陸まで運行された場合は、現行の特急列車と比較して約三倍の輸送が可能となる。

富山県では北陸新幹線の開業効果を最大限に活かすため、観光の振興や交流の促進、産業の振興に力を入れており、「新幹線戦略とやま県民会議」が平成二十四年五月に設置されている。分野ごと

25年前、友人と2人で冬休みを利用してオーストラリアへ「ゼロ戦21型」を見に行った。一般公開はされていないが、日本から来た珍客を快く迎えてくれた。わざわざ南半球までゼロ戦を見に行つたのには理由がある。世界で唯一、オリジナルに近い塗装と部品で復元された機体だからだ。

また、平成三十七年には、金沢駅から敦賀駅までの開業が予定されており、未公表ではあるが、将来的には大阪までのルートも計画されている。北陸新幹線が全線開業となれば、東海道新幹線の負担軽減にも繋がり、新しいバイパスルートとしての役割を果たすことができるようになるという。

さて、富山支部担当として、今回は富山県人会在学生の近況を紹介したいと思う。現在の在学学生数は12名であり、次年度は六名の生徒が入学予定となっている。一月に行われた県人会では、今年度の成果を各自発表する報告会を実施した。彼らの今後の活躍に期待が持てる会となったことをお伝えしておく。

最後に北陸地方の方々にとつて北陸新幹線開業は喜ばしいことだと思つが、私にとつては不安な面もある。関東地方への繋がりが濃くなり、東海地方との繋がりが薄くなる可能性は、やはり否定できないだろう。しかし、中部地方の地域として過去に築き上げた繋がりは、今後

## 編集後記

ゼロ戦は、日本が生んだ傑作機なのに、国内にはまともな機体は残されていない。全長9メートル、幅12メートルの小さな機体には実に多くの技術が織り込まれている。水滴風防、定回転プロペラ、枕頭鉾、振り下げ翼など世界から見ても驚くべき技術力を日本は持っているのだ。現代のように精密な測定器やコンピュータがあったわけではなく計算尺と定規で図面を引き、職人ともいえる技術者たちの英知と技が生み出した傑作機。それがゼロ戦だ。

昨年、永遠の0を観た。搭乗員達の命と引き換えに託された未来。戦後、日本人は英知と勤勉な国民性を発揮して見事に国を再生した。先人たちが託された未来を今度は、私たちが受け継ぎ、いま日本が抱えている様々な問題を解決する為の道筋をつくつて次の世代に渡さなければならぬと思った。

(零式)